

第46回



FUJIYA MANUFACTURING
VIETNAM

FUJIYA MANUFACTURING(VIETNAM)社は、大阪府東大阪市に本社を置き今年で創立90周年を迎えるフジ矢株式会社のベトナム現地法人として、2007年に設立されました。「フジ矢」の社名の由来は、日本一の富士山と岩盤をも砕く強い矢を意味しており、ロゴマークにもそのこだわりが反映されています。フジ矢の作業工具は職人に好まれる丈夫で高品質な製品が多く、日本国内でもトップシェアを誇っています。今回はそんなFUJIYA MANUFACTURING(VIETNAM)の小谷社長にお話を伺ってきました。

●事業内容

ペンチ・ニッパーの製造販売

●FUJIYA MANUFACTURING VIETNAM CO.,LTD.

Lot B - 3B8 - CN, My Phuoc 3 Industrial Park , Ben Cat, Binh Duong Province

●日本本社

大阪府東大阪市松原2-6-32



一進出の経緯についてお聞かせください。

弊社は創業が1923年で今年で創立90年を迎えるペンチ・ニッパーの製造販売企業です。弊社の製品は日本国内では、業界関係者の皆様から高い評価を頂いており、約40%のシェアを獲得しております。しかし、昨今は、中国、台湾などのメーカーが安価な製品を製造販売するようになってきており、将来的な国際競争において、価格競争力を保つためには、コストの削減が必須と考え、海外での製造拠点を検討することとなりました。

ちょうどその頃、2002年頃ですが、日本本社でベトナム人研修生を受け入れる



刃付け工程

ようになりました。弊社の業務は職人仕事でもあり、長年の経験と技術が要求されるのですが、最近の日本では若い人でそのような仕事をする人が少なくなってきており、日本での技術の伝承も難しいと感じていたのですが、ベトナム人研修生は、日本側の期待以上に真面目に取り組み、素直な人が多く、技術の習得も早い人が多くいました。

しかし研修生は3年間で帰国しなければならず、折角覚えた技術をベトナムでは生かせない状況で、帰国する研修生からも、是非ベトナムで工場を設立して欲しいという要望が出たりもしており、ベトナム自体が親日的な国民性ということもプラス材料になり、ベトナムへの進出が決定しました。

進出候補地としては当初ベトナム北部も検討しましたが、当時の北部では、工業団地が大きな区画しか対応しておらず、南部で、ベカメックス社が管理するビンズン省のMy Phuoc工業団地に、丁度弊社の希望する大きさのレンタル工場があったこと、ベカメックス社から熱心なサポートを受けられたこともあり、My Phuoc3工業団地へ進出することになり、2007年8月

にFUJIYAMNUFACTURING(VIETNAM)を設立することができました。設立当初は日本人2名、元研修生4名、オフィススタッフ2名という非常に小規模からのスタートとなりましたが、順調に業績を上げることができ、2012年に同じMy Phuoc3工業団地内で、自社工場を建設することができました。

一業務内容についてお聞かせください。

弊社は、ペンチやニッパーなどの工具類の製造・販売を行っております。弊社の製品は使いやすさと品質の高さで、日本では、多くの職人の方々にご愛用いただ



高周波熱処理工程



ペンチの鍛造品を切削加工

いており、弊社のペンチがJIS規格の基準になっています。

ペンチの製造工程には50~60の工程があるのですが、ベトナム工場では設立当初は、その工程のうちの一部だけを行っていましたが、2009年からはベトナム工場での完成品までの全工程が対応できるようになりました。

また、2013年には輸入販売のライセンスも取得することができました。現在弊社の製品の一部は、ベトナムの家電量販店であるNguyen Kimに置いていただいております。また、昨年5月から、文房具等のカタログ販売をされているNhanh Nhanhでも弊社の製品のご購入が可能になっています。

現在弊社は日本で約40%のシェアを獲得しておりますが、ご存知のように日本の市場はこれから縮小傾向にありますので、将来的にはベトナムを第2の市場と考えています。また、展示会などを通じて、台湾、アメリカ、カナダ、イギリスなどの国からもお引き合いを頂いておりますので、将来的には、ベトナム以外の海外市場にも弊社の製品をここベトナム工場から直接販売していきたいと考えています。

ベトナムで事業を行うにあたって困ったことなどありますか？

弊社の場合、ベトナム進出が決定してからレンタル工場が決まるまでは、実は元研修生で現在も弊社で頑張ってくれている社員の実家の納屋を借りて、研磨機を一台だけ日本から持ってきて、作業をしたりと苦労しました。

他には、ワーカーの離職率の高さには困っています。弊社の業務は中々自動化出来ない作業が多く特に刃付け工程や研磨工程はどうしても人の手でなければできない微妙な作業で、3年から5年かけて漸く一人前になれるものなのですが、こちらのワーカーは10人雇用しても翌月に



ペンチの鍛造品を穴明け加工

は3人ほどしか残っていないこともあり、中々定着率が上がりません。

一方で1年以上続く人は、その後ほとんど辞めませんので、離職率を下げるために忘年会や慰安旅行、誕生日会などを行って、少しでも会社に愛着を持ってもらえるようにしています。

ベトナム人スタッフについてはどのように評価されますか？

現在弊社の従業員は84名で、そのうち日本人が2名です。社員の中で9名が日本で研修生として働いた経験を持っており、そのうち5名は弊社の日本本社での元研修生になります。

この9名が日本での経験を生かして、スーパーバイザーとして一般のワーカーを指導しています。

ベトナム人については、本社で研修生を受け入れた当時から、本当にできるのか？という反発は当初社内でもあったのですが、実際に受け入れてみると、非常にまじめで素直な人が多く、技術も半年ほどするとそれなりのレベルまで上達するなど優秀な人が多く、即戦力として活躍することができ、社内でも受け入れられるようになりました。

先程も申しましたが、刃付けというのが、最も重要な職人技なのですが、現在ベトナムの工場でも10人がこの刃付けをできるようになっており、日本に研修に行っていなくても刃付けができるようになる人も少しずつ出てきています。



ペンチの開閉をスムーズにしています。

確かに離職率は高いのですが、残る人は熱心で優秀な人材が多くいますので、こういった人材を今後も増やしていければと考えています。

今後の展開について教えてください。

2007年に工場進出をしてから、6年になりますが、2009年には、ベトナム工場でも完成品までを製造出来るようになり、少しずつではありますが、ベトナム国内の量販店等でも販売が始まってきておりますので、更に販売を増加させるため、国内の販売店を増やしたいと思っております。また、2011年に貿易商社であるフジ矢インターナショナルを日本で設立しましたので、海外販売を益々強化していきたいと考えています。

アジアの企業という視点で、『ものづくり』にとことんこだわっているメーカーであり続けて、総合工具メーカーとしてベトナム国内に限らず、近隣諸国への販路を拡大していければと思っております。

ありがとうございました。



綺麗にカット！
切断面を綺麗にカット！
2枚の板で結束バンドの切れ端をしっかりと掴んで飛散防止！

キャッチニッパ (バナネ付き) 90CS-125

偏芯パワーペンチ 3000N-225



結束バンドの切れ端を確実にキャッチ！